

問1 英文読解の問題であり、以下に正答例を示す。

地図作製が「生得的」といえるのは、人間は空間の中に自分を位置付け、その知識を地図に記し、地図から読み取る能力をもっているからである。そして、その長い歴史が私たちに、世界の情報源として地図を信頼させるようになった。しかし、地図は、現実の世界をそのまま描いたものではない。作製者の視点を反映し、描かれるものも作製者によって取捨選択されている。そもそも地球は丸いのに、それは地図の平面に描かれる。

問2 論述問題のため、以下に解答のポイントを示す。

解答には、出題された文章の内容に即しつつ、この地図が、①冷戦期、特に反共主義が隆盛していた時期のアメリカ合衆国におけるオピニオンリーダー的雑誌に掲載されたものであること、②当時のソ連をはじめとする共産圏の存在を際立たせるかたちで描写されていることへの理解が重要である。

②に関しては、たとえば、地図上部の西欧や南アジア・東南アジアと地図下部の共産圏を比べると後者の方が広く描かれており、前者は共産圏からみて半島のようにみえる構図とすることで、共産圏の存在感を強く感じられる地図となっている。

これらの理解に基づき、冷戦時、ヨーロッパとアジアにおけるソ連をはじめとする共産主義勢力の脅威を、反共主義が強まるアメリカ社会においてより強く喚起するという政治的意図をもってオピニオン誌向けに作製された地図である、との解釈に至ることができる。